各務原市民公園リニューアル整備基本計画



基本計画概要版

(1)業務の目的

本事業では、各務原市民公園に関わる多様な主体が、それぞれにリニューアルの意義について 共感し、供用後にも積極的な関わりが持てるようなリニューアル整備基本計画を策定すること を目的とする。

(2) リニューアルの基本方針

①基本コンセプト

リニューアルの計画を進める上で、公園そのものが魅力的になることはもちろん、周りのまちづくりもイメージしながら考える必要がある。幅広い世代の方が関わり、新たな市民公園をつくりあげることで、個性と活力のあるまちがつくられていくと考えられる。

市と市民がパートナーとなり、公園という場を通じて、人と人がつながり、次の世代へ魅力的な風景を引き継いでいけるような「こどもに見せたい風景がある公園」を目指す。

基本コンセプト

こどもに見せたい風景のある公園 ~公園でまちと人がつながる~

②基本方針

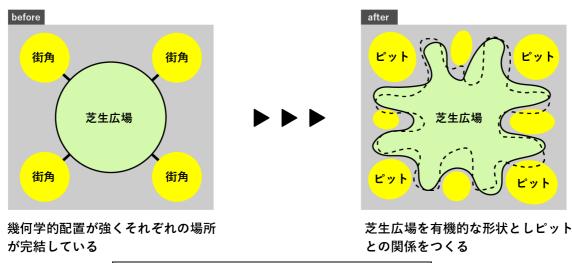
リニューアルする上で考慮すべきことと基本コンセプトを踏まえ、「つなぐ」をキーワードに 基本方針を以下のように整理した。

基本方針

- 1. 歴史・時間をつなぐ
 - ① 広場と公園という骨格を活かした空間構成とする
 - ② クニハガーデンや保存樹木などを活かしたリニューアル計画とする
 - ③ 文化施設と公園の一体的利用を想定した計画とする
 - ④ 現在進行系として、利用者とともに公園をアップデートできるしくみをつ くる
- 2. 風景をつなぐ
 - ⑤ 学びの森を含めたエリア一体でのオープンスペースを活用し周辺エリアの 価値向上を図る。
 - ⑥ 多様な利用を許容し、単独の活動で完結しないストーリー性のある利用を 促す計画とする
 - ⑦ 視線が通い合う連続した風景を計画する
 - ⑧ 互いの存在を認識することによる居心地の良さ(距離感)の計画する
- 3. 人(アクティビティ)をつなぐ
 - ⑨ 公園に多様な活動を受け入れるためのしくみをつくる (=PRM)
 - ⑩ 多様な活動を受け入れる有機的な形状をもつ広場計画とする

③ゾーニングの考え方

現在の市民公園のゾーニングは、芝生広場を中心に 4 つの街角が配置されているが、幾何学的 図式が強く中心を持つため、それぞれの場所が単独で完結してしまっている。公共空間での過ごし方や活動が多様化する中で、芝生広場とそれぞれのアクティビティの接点を出来るだけ長くとり、互いに関係をつくりやすくすることが風景をつなぐために重要である。ここでは中央の芝生広場を枝葉のある有機的な形状をもった空間とすることで、芝生広場と囲み取られた空間(=ピット)との多様な関係をつくることとする。



芝生広場を中心とした骨格を残した新しいゾーニング

枝葉部分である空間(=ポケット)は隣接するピットとの相互作用により、それぞれが個性をもつ。公園全体としては個性が集合した多様な広場としての性格をもつこととなる。

画一的な空間 → 一体感のある多様な空間

芝生広場と街角は、現状では木々により視線が遮られていることや、接続する動線が限られていることで、相互の関係が分断されており多様な活動を誘発しづらい状態となっている。リニューアル案では、今までにはなかったポケットによって小さな活動の拠り所を計画する。これにより、PRM 等で提案された多様な活動の受け皿となることが想定される。



芝生広場と街角は動線や視線が分断されてしまっている

芝生広場に囲みとられた窪み空間は 小さな活動の拠り所となる

有機的な形状をもった芝生広場が新しい風景をつくる

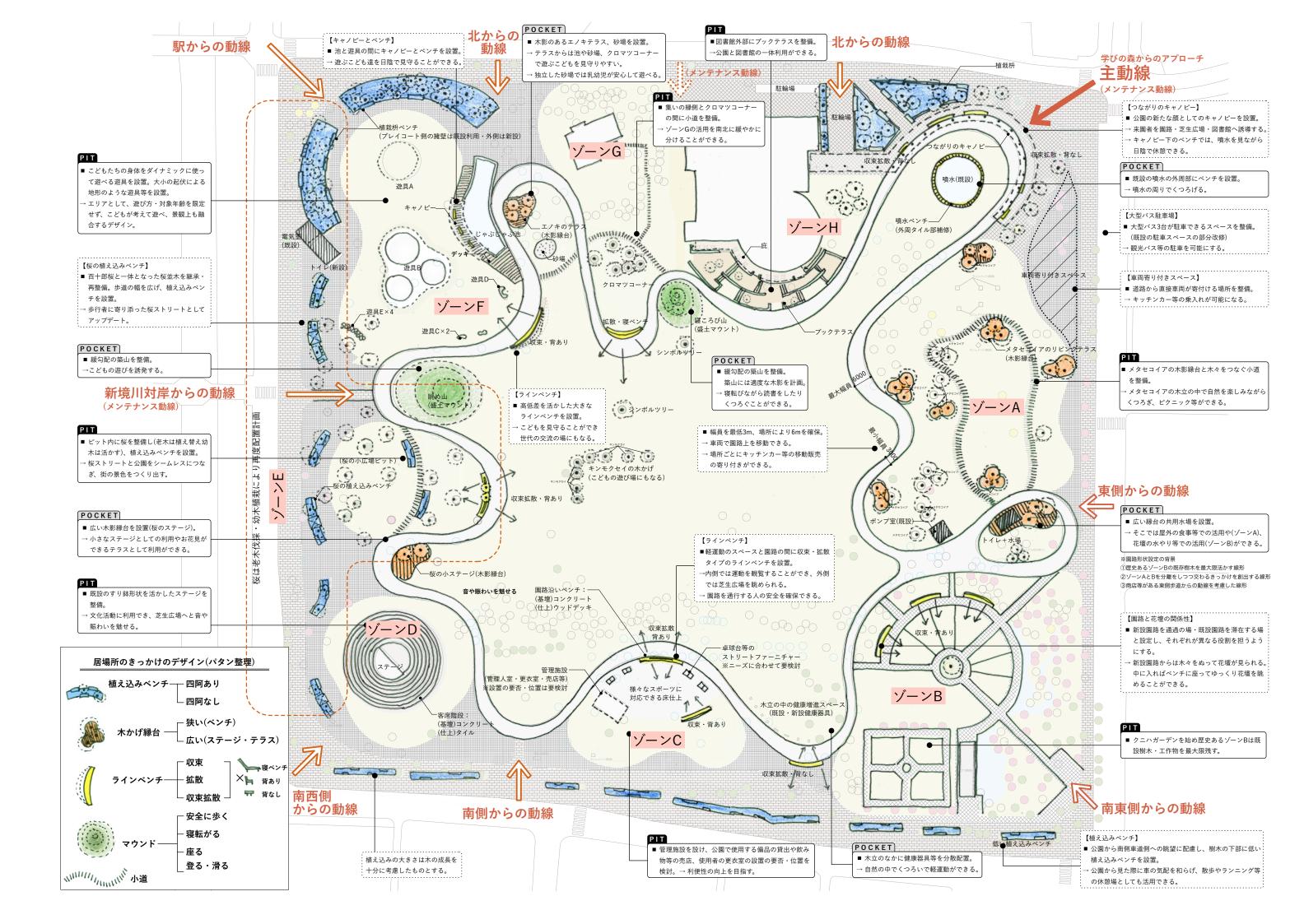
(5) ハード整備

リニューアルする上で考慮することと、リニューアルの基本方針を踏まえ、芝生広場と有機的な関係を持つ8つのゾーンを設定した。8つのゾーンには歴史的背景や立地条件、市民ニーズなどにより、それぞれに異なる機能が与えられた。各ゾーンは個別に完結するのではなく、公園全体として多様性を持つべく、ポケットを内包した有機的な広場と園路によって、ゆるやかにつながり、多様な人々と活動を受け入れる場所とする。

8つのゾーンの利活用の考え方

ゾーンと 機能	ゾーンの性格	利活用の考え方
① ゾーン A メタセコイア の リビング	メタセコイアがまとま って植生され、自然と都 市空間が織りなす景観 が印象的なゾーンでり り、まちなかでゆっくり 自然を楽しめるアーバ ンキャンプ、アウトドア キッチンなどの利用が 想定される	【具体的な整備イメージ】 ・簡易なキャンプグッズやハンモック等を使って、木陰でのデイキャンプ ・大きな木の下を散策するボードウォーク ・日常的にキッチンカー等の移動販売車が寄付き、営業に必要な電気や給排水等のインフラ供給ができるスペース 【検討課題】 ・トイレのリニューアルに合わせた水場のあり方について(水を使ったワークショップ、手軽に屋外で食事を楽しめるアウトドアキッチン等)
② ゾーン B まもり育てる ガーデン	クニハガーデンや岐阜 大学時代からの樹木が 多く残っていることが 特徴的なゾーンであり、 歴史ある緑をまもると いう役割を残しつつ、新 たに「育てる」という役 割が求められる	【具体的な整備イメージ】 ・植物を育てることを通じて「つながり」が生まれる場でありコミュニティガーデンとしてリニューアルする ・花壇を愛でたり、作業の休憩に使い勝手の良いベンチ等くつろぎのスペース ・植物を育てるための誰もが使い易い水場やストレージ 【検討課題】 ・ガーデンの維持管理、その担い手の育成
③ ゾーン C ウェルネス コート	旧国道 21 号に面した 市民公園の顔として認 知されるゾーンであ り、健康をテーマとし た「ウェルネスコート」 とする 公園を利用したランニ ング等スポーツ利用者 の拠点とも位置付けら れる	【具体的な整備イメージ】 ・様々なスポーツに対応できる床仕上げと、休憩や観覧のためのベンチや水飲み場を整備する(ピット部) ・広場と連続したヨガや太極拳など軽スポーツのための芝生空間(ポケット部) ・遊具ゾーンにある健康器具の移設・新設 【検討課題】 ・卓球やスポーツコートなどの具体的な軽スポーツのニーズ調査と、設置すべきストリートファニチャー等の整理及び、使い方を含めたルールのアップデート ・公園で使用する備品の貸出や、飲み物等の売店、シャワーおよび更衣室の設置など、環境向上のための施設の設置を検討(PFI 制度等を含めた管理運営についても検討)

	T	
4	 旧国道 21 号と新境川と の交差点に面し、那加商	【具体的な整備イメージ】 ・園路や広場から雰囲気を感じ取れる既存の噴水広場を活かした
		ステージと客席の整備
ゾーン D	店街との接点となるゾ	【検討課題】
	ーン	・市民の表現の場として、今後も PRM を活用し、使い方など意見
表現の	円形舞台を踏襲し、「表	を聞きながら市民とともに作り上げる
ステージ	現のステージ」として位	・コストバランスに配慮したステージの仕様の検討(屋根、客席、
	置付ける	音響等)
		【具体的な整備イメージ】
⑤	 新境川に面し、市民が親	・歩道の幅を広げ、ちいさなたまり場やベンチを配置し、対岸の桜
ゾーンE	 しんできた百十郎桜と	並木と呼応する場とする
	一体となった桜並木を	・ストリートはポケットと一体で整備、まちと公園のつながりを緩
 	活かしつつ、留まれる場	やかにし、園路へ誘導する
ストリート	として更新する	【検討課題】
		・老朽化した桜の撤去および植替え
	子育て世代の利用率、ニ	THE HALL STATE OF CHARLES SHELL VILLE
		【日/
	ーズ共に非常に高く、環	【具体的な整備イメージ】
6	境の向上をもっとも期	・大地と空、自然にダイブするような、こどもたちの身体をダイナ
ゾーンF	待されている	ミックに使って遊べる遊具の設置や空間の創出
	水路や園路、健康器具に	・大小の起伏による地形のような遊具など、遊び方・対象年齢を限
プレイ	よって広場と分断され	定せず、こどもが考えて遊べ、景観上も融合するデザインの遊具
コート	ていた遊びの街角が、広	・異年齢のこどもが安心して遊べるゾーニング
	場とつながりを持つ拡	・程よい日陰をつくり、保護者の見守り空間を確保
	張された場となる	
	┃ ┃屋内および縁側から広	【具体的な整備イメージ】
7	場を望むことが出来る	園路および広場空間から引きをとり、建物が持つ風格を維持し、景
ゾーンG		観としてもなじませ、独自の利用を可能する
	茶室は、雨天かまわず利	【検討課題】
集いの縁側	用ができ、集会等に活用	・茶室として設置された背景があり、多様な活用については運営方
	しやすい	法の見直しが必要となる
		【具体的な整備イメージ】
		・既存噴水を活かしたキャノピーをもつ新たな居場所
		・図書館と公園を造形的につなぎ、なじませるデザインの園路やブ
	新たな市民公園の顔と	ックテラスおよびキャノピー
8	して、公園と図書館が交	・公園と図書を結ぶ半屋外のブックテラス空間
ゾーン H	わり、憩う親水縁側空間	「女園と図書を相い十座外のノックナノへ上間 【検討課題】
/-/	半屋外のブックテラス	・南側の円形の外壁・サッシをリノベーション・
→ A	整備と共に、多様な場	・
ブック	と、いろんなきっかけを	
& 4	もつ文化活動の拠点と	求められる
パーク	して市民公園をアップ	本を読む
	デートする	本を持ち出す わいわい学習 見る 外を見ながら休憩する ふらっと立ち寄る
		□ N





(4) ソフト整備

基本方針におけるソフト計画の考え方

- ・歴史や時間をつなぐ~利用者とともに公園をアップデートできるしくみをつくる
- ・人(アクティビティ)をつなぐ~公園に多様な活動を受け入れるためのしくみをつくる

ハード整備「つくる(= デザイン)」に対して、ソフト計画では「つかう」「育てる」「伝える」の3つのキーワードを軸として、活動を推進する。ハードとソフトは、互いに補完し相乗効果をもたらすため、ハードとソフトを同時に考えることによって、公園の質が向上する。

■ソフト計画のための3つのキーワード

「つかう」: ひとりひとりのやりたいに寄り添い、公園のニーズや使い方を発見していく。 既にある条例やルールを使い方に合わせてアップデートしていく。 市民が行政とともに主体的に市民公園を守っていく。

「育てる」:市民公園コミュニティを育む。 公園を使いこなす人、公園に精通したコンシェルジュ、維持管理の担い手など 人材を発掘・育成する。

「伝える」: リアルタイムな情報を発信(計画段階から状況を発信し、関心を促す) 多様な人に届く、様々な情報を発信する。 公園そのものがもつ様々な魅力を発信する。

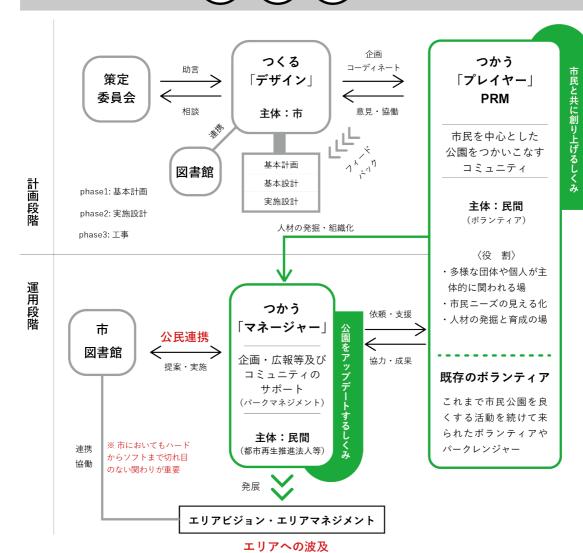
■ソフト計画の進め方

計画段階から多様な人を巻き込み、整備後も持続可能な公園として民間の意見も取り入れながら使い方やルールをアップデートできるしくみが必要である。

そのために、基本計画の時点で、市民を中心とした公園を使いこなすコニュニティ(= パークリノベミーティング※以降 PRM)を創出し、市民公園でやりたいことをベースに未来の市民公園について話し合いながら、実際に公園の利用を高める機運を醸成していく。

運用段階では、民間主導の「つかう」チームを組織化し、PRM と協同し公園をアップデートしていくことが想定される。PRM は、市民を中心とした公園を使いこなすコミュニティであるが故に、持続した活動を行うためのサポートが必要となる。

市民公園を つかう 育てる 伝える ための、進め方としくみ



(5) 市民アンケート

実施期間 令和元年 11 月~12 月上旬

質問内容 市民公園の利用の有無、利用頻度

中央図書館の利用の有無、利用頻度

市民公園を誰と一緒に利用しているか、どんなことで利用しているか

市民公園内でよく使う場所、お気に入りスポット

市民公園に対する評価

市民公園が愛されている施設と思うか

市民公園の良いところ、残念なところ

回答者数 810 人

回答者属性

WEB	366人	45%
市民公園内	102人	13%
中央図書館内	100人	12%
さくら子ども館利用者	40人	5%
那加第二小学校 3年生	75人	9%
那加第二小学校 教員	23人	3%
中部各院大学学生	32人	4%
クラブサークル	63人	8%
市民公園利用申請者	8人	1%
市役所窓口	1人	0%
合計	810人	100%

職業	回答数	回答率
自営業	23人	3%
会社員、公務員、団体職員	231人	29%
パート、アルバイト、派遣	93人	11%
専業主婦、専業主夫	181人	22%
学生(中学生、高校生、大学生)	96人	12%
小学生	75人	9%
無職	83人	10%
その他	7人	1%
未回答	21人	3%
合計	810人	100%

性別	回答数	回答率
男性	299人	37%
女性	495人	61%
未回答	16人	2%
合計	810人	100%

居住エリア	回答数	回答率
那加	326人	40%
蘇原	131人	16%
鵜沼	158人	20%
稲羽	35人	4%
川島	14人	2%
市外	94人	12%
未選択	52人	6%
合計	810人	100%

年代	回答数	回答率
~10代	75人	9%
10代	93人	11%
20代	78人	10%
30代	204人	25%
40代	118人	15%
50代	70人	9%
60代~	169人	21%
未回答	3人	0%
合計	810人	100%

■回答者属性ごとの施設利用と市民意識のまとめ

回答者の属性ごとの分析から、概ね3つ(下図3色)の施設利用及び市民意識を把握した。 また、リニューアルする上で考慮すべきこととして下記の1から4が得られた。

- ①誰もが使いやすいトイレに改修
- ②親子のための遊べる場所・飲食物を買える場所の充実
- ③学生のための友達と過ごせる場所(図書館周り)の充実
- ④ミドル世代以上のための一人でも過ごせる休憩場所(園路沿い)の充実

どんな人が	誰と	どこをつかっている	何をしている	使う上で改善してほしい点
学生世代	友達	噴水池、芝生広場、図書館	勉強	トイレ
こども世代	親や友達	噴水池、芝生広場、遊具広場、図書館	遊び	トイレ、遊具の不足
子育て世代	こども	噴水池、芝生広場、遊具広場	遊びや散歩	トイレ、遊具の不足、飲食物を買える 場所の不足
ミドル世代	家族やひとり	噴水池、芝生広場	散歩	トイレ、休憩場所の不足
シニア世代	家族やひとり	噴水池、芝生広場、図書館	散歩	休憩場所、木が茂った部分

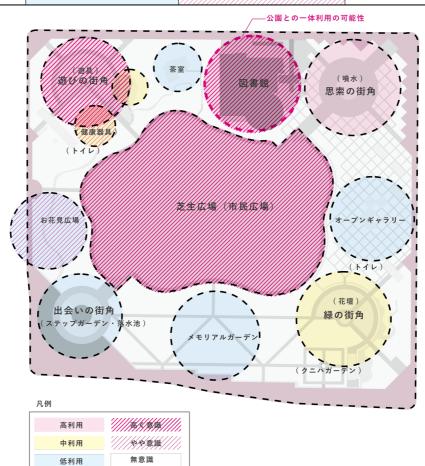
■ゾーンごとの施設利用と市民意識のまとめ

ゾーンごとの分析から、以下の施設利用及び市民意識の現況を把握した。

また、リニューアルする上で考慮すべきこととして下記の1から3が得られた。

- ①芝生広場は市民公園の骨格である
- ②公園と図書館の一体的な利用をめざす
- ③低利用・無意識ゾーンの役割の見直し

ゾーン	どのくらい使われているか	どのくらい意識されているか	主な利用者
芝生広場	高利用	高く意識	こども・子育て世代
遊具広場	高利用	高く意識	こども・子育て世代
噴水池(ゾーン)	高利用	無意識	こども
図書館	高利用	高く意識	こども・シニア世代
ランニングコース	高利用	無意識	ミドル・シニア世代
健康器具	中利用	やや意識	
緑の街角 花壇	中利用	無意識	こども・シニア世代
じゃぶじゃぶ池	中利用	無意識	こども・子育て世代
日本庭園・茶室	低利用	無意識	
ステップガーデン	低利用	無意識	
オープンギャラリー	低利用	無意識	
メモリアルガーデン	低利用	無意識	
お花見広場	低利用	やや意識	



(6) 市民ワークショップ

2019.12.14(土) 10:30-12-30 参加者 49 人 13:30-16:00 参加者 25 人

パークリノベ 1ミーティング

各々が描く未来の市民公園のイメージする 市民公園のポテンシャルをみつける

午前 ①青木さん・手塚さんレクチャー

公園の新しい使い方のはなし

午後 ②オリエンテーション

アンケートによる市民公園のニーズを共有する

③フィールドワーク

市民公園内を歩いてポテンシャルをみつける

2019.12.18(水) 19:00-21:00 参加者 22 人 2020.01.08(水) 19:00-21:00 参加者 13 人

2020.01.22(水)

パークリノベ234

市民公園で「やりたいこと」のタネをひろう

①公園の先進事例を知る

②「やりたいこと + ひと」と「場所」をつなげる

2020.02.01(土) 13:30-16:00 参加者 20 人

19:00-21:00 参加者 14 人

パークリノベ 5

市民公園で「やりたいこと」のタネを選ぶ

①沢山のタネから実験してみることを人気投票

②実証実験の日の企画づくり

パークリノベ 6

進捗状況報告

2020.03.01(日) 10:00-15:00 参加者 14 人 (予定) ※社会情勢を鑑見送り

パークリノベ ミーティング

実証実験

「やりたいこと」による小さな風景づくり

パークリノベ 8

実証実験のふりかえり

アンケートと PRM により得られた市民公園でやりたいことについて、ひとつひとつのアイデアを行為の組み合わせに変換したところ、行為と行為に様々なつながりが見られた。また、パークリノベミーティングにおいて「今はなぜできないか」と聞いた所、「それぞれの場所が独立しているから」「やりたいと思える空間になっていないから」といった意見が多数聞かれた。このことから、現状は複合的な使い方が成立されにくい空間である可能性が高いといえる。リニューアルする上では、行為と行為をつなぐきっかけをつくることを考慮すべきである。

やりたいことのアイデア-

木登りできる木の施設や、 登るための設備、 空に届くジャングルジム。

-行為の組み合わせに変換

自然を使う

運動する

遊ぶ

